

右後肢を欠損しているクサガメの産卵行動

鳥井正男¹・上野真太郎²

¹ 654-0049 兵庫県神戸市須磨区若宮町1-3-5 神戸市立須磨海浜水族園ボランティア

² 113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻

Egg-laying behavior of *Mauremys reevesii* which lost its right hind.

By Masao TORII¹ and Shintaro UENO²

¹ Kobe Suma Aquarium, 1-3-5, Wakamiya, Suma, Kobe, Hyogo, 654-0049, Japan.

² Department of Ecosystem Studies, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, 1-1-1 Yayoi, Bunkyo, Tokyo, 113-8657, Japan.

2017年7月7日の正午頃、兵庫県川西市笹部の水田畦道で草刈をしていた住人から畦道を歩いている大きなカメを捕まえたと言われ連絡をいただいた。確認しにいくと、甲長19cm、体重929gの立派なメスのクサガメであったが、右後肢の足首から先を欠損していた。そして、カメの鼠蹊部そけいぶに触れたところ、体内に卵を持っていることが確認できた。野外でカメを探していると、後肢を失ったメスの個体を時々見かけるが、筆者はこのような個体がどのように産卵するのか長年、疑問に思っていた。そこで今回、後肢を欠損したカメが無事に産卵できるのかどうかを調べるため、このカメの産卵行動を観察すること



図1. 卵を産み落とす右後肢を欠損したクサガメ

にした。行動の観察は7月15日から開始し、自宅の庭の一区画を金網で仕切った産卵場にカメを放して行った。観察時間は毎日、午前4時半から午前8時頃とし、観察時間以外はプラスチック製の飼育容器にカメを戻した。

観察を続けて3日目の7月18日の午前7時15分、ついに穴掘り行動が確認された。カメに気づかれないように注意しながら観察していると、欠損している右後肢は土をかき出す役割をまったく果たしていないにもかかわらず、健全な左後肢と同様に土を掘るような動作を繰り返していた(図1)。そして、左右の後肢を交互に動かしながら、実際は左後肢のみで土をかき出し、1時間15分かけて穴を掘り終えた。その後、約20分かけて産卵し、穴埋め行動に入った。今回の観察から片方の後肢が欠損していても、産卵行動を行えることが明らかになった。観察した行動の中でも特に興味深かったのは土のかき出しに機能していない右後肢も健全な左後肢と同じように動かしていた点であった。産卵時の穴掘りは本能行動であり、機能や成果に関係なく、左右の後肢を動かすようになっているのかもしれない。今後は通常の個体の産卵行動も観察し、四肢欠損個体との違いも検証してみたい。

謝辞

カメの捕獲に協力していただいた平井久美氏にはこの場を借りて御礼申し上げます。